

Niigata Award News

(食の新潟国際賞財団通信)

2011/07/01 第9号

発行：一般財団法人 食の新潟国際賞財団

〒951-8131 新潟市中央区白山浦1丁目425-9
新潟市白山浦庁舎内

URL: <http://www.niigata-award.jp>

E-mail: info@niigata-award.jp

(季刊・年4回発行)

平成23年度第一回通常理事会が開催されました

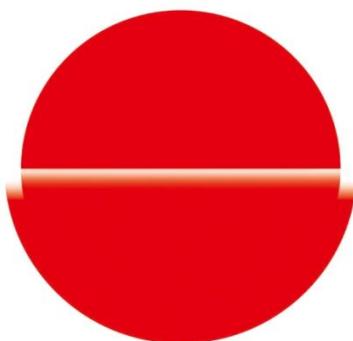
6月20日(月)新潟市役所会議室で、平成23年度食の新潟国際賞財団第一回通常理事会が開催されました。

主な議題は、平成22年度活動報告及び決算の承認、第2回食の新潟国際賞推薦に係る議案等です。



推薦に関する議案は、今後評議員会の決議を経て最終的に承認されます。

また、本年秋より第2回食の新潟国際賞の推薦が開始されます。推薦要項、応募受付期間などの詳細は、次号にてお知らせいたします。



Niigata Award

食・農・緑の新しい教育の先頭へ

新潟農業・バイオ専門学校
校長 新美 芳二



新潟農業・バイオ専門学校は平成23年4月に新潟市中央区に開校しました。当校は新潟という地域のブランドをいかせる産業である農業、食品加工、園芸といった業界分野へ優れた若者を輩出させることを目的としています。各分野の専門教育はもちろんのこと、職業人としての人間教育ならびに地域活性を主体的にできる新しい発想をもった学生の輩出を教育理念としています。当校は次の3学科があります。農業の実践から経営まで学べる農業経営科、醸造や環境調査の専門教育が実現されているバイオテクノロジー科、園芸の基本的知識から植物を活用したビジネスまで学べる園芸デザイン科です。

各学科それぞれに大きな特徴を持っております。特に食と農に関わる学科として農業経営科とバイオテクノロジー科が注目されます。農業経営科では生産技術の習得はもちろんのこと、販売経路の確立、経営感覚を身につけるなどのビジネス分野の知識技術の習得を図っています。また、県内各地域へ積極的に実習授業として訪問し、その地域との連携を図ることで卒業した学生が地域に定着することを目指しております。



バイオテクノロジー科授業風景

また、バイオテクノロジー科では、微生物や生物工学の専門知識を学んだうえで、醸造や食品加工の専門実習を実施するカリキュラムが整っています。特に日本酒、ワインの酒造実習、味噌、醤油の醸造実習があり、これら食品の一連の製造工程を学ぶことができます。学生はこれらの製造工程を学び、実際に経験することで新潟の食の奥深さを知ることとなります。そのことから、新潟の食に対して誇りを持った若者の輩出が期待できます。

この学校を通して新潟県の地域の食、農、緑の魅力を発信できるように、今後スタッフ一同、教育内容の充実を図っていきます。まだ始まったばかりの当校ですが、地域で必要とされる専門家の養成を行う所存です。



農業経営科授業風景



園芸デザイン科授業風景

新潟バイオ・専門学校(ABio)について、より詳しい情報はこちらをご覧ください

ホームページ : <http://abio.jp>

〒950-0932新潟県新潟市中央区長潟2-1-4

フリーコール 0120-952-794 FAX 025-368-7124

E-mail : abio@nsg.gr.jp

とても寒かった今年のタイの3月

三重大学名誉教授 梅林 正直
タイ仏暦2554年3月31日(木)

タイの今年3月は、今迄に経験したことのないような寒さで、暖房のない国での冷える厳しさを否応なしに思い知らされた。

3月3日には、2月末にチェンライで採取した100kgの梅の実のうち残り約1kg強を使って、梅酒をはじめ日本酒氷砂糖漬、はちみつ漬、氷砂糖漬などいろいろ試みた。

3月7日・8日は、スコータイ植物園のWirat 所長と一緒に、新しく建設中の植物園を一泊で見学して、今年の七夕植樹祭にマナオと矮性ココナツを植える計画や、日本的な盆栽展示を新設する案を検討した。

3月9日(水)には、秋篠宮文仁親王殿下が、チェンマイ大学から名誉博士号をお受けになられる式に参列した。

もう今から23年も前になる昭和63年1月11日に、常陸宮正仁親王殿下が華子妃殿下ご同伴で、チェンマイ大学から名誉博士号をお受けになられた時にも列席した栄誉を思い出した。わが皇室の二代にわたるチェンマイ大学名誉博士号授与に続けて参列出来たことは、この上ない光栄の極みであった。

3月10日(木)夜には、毎月恒例のチェンマイナコンピン・ライオンズクラブの例会があり、2月22日のニュージーランド大地震と日本も地震国なので注意をするように話をした。その翌日こんなことになろうとは!!! 汎太平洋西岸域地震帯は、ニュージーランド、インドネシア、フィリピン、日本、アリュウシャン列島とず〜っとつながっていて、そろそろ東海大地震の警戒警報ではと強く感じていたところであった。



秋篠宮文仁親王殿下がチェンマイ大学から名誉博士号を授与された。(後列右より2人目の白服が梅林)

3月11日(金)の東日本大震災のテレビ報道には、やはり来るべきものが来たぞ、でも東海大地震ではなかったと、厳しい感覚で受け止めたのであった。

16m以上の巨大津波は陸上を遡って38mにもなったという、将に1000年来の自然の営みであった。

昨今100年来、100年来といろいろな場面で言われ続けて来ているが、人間様の三代位の経験と期間は全く物の数ではなかったことが明らかにされた。

大被害を受けられた方々に、心からお見舞い申し上げます。

それにつけても今から1932年前に南イタリアのベスビオス火山の大噴火で、埋没されたポンペイの人々と文明が思い出されて、自然の営みの人智を超えるスゴサをしみじみと認識させられている。

3月17日～20日まで、タイ全土のライオンズクラブの大会がピサノロックで開かれ、チェンマイからも約30名余の大勢が参加した。17日の夜は東隣のウタラディット県のカオコウ国立公園内のジャンレムResortに宿泊したが、



スコータイ遺跡。13世紀～15世紀に栄え、日本との交流も深い。アユタヤ王朝より前の王朝。

雨模様で気温がどんどん下がって10℃近くになり、凍えるような寒さであった。Dr.MA NAOは、タイでもこの2～3年で雪が降るようになるよと予想してきたが、この夜タイではなくてベトナムに雪が降って大ニュースになった。

3月27日～29日にも北部タイでは低温が続き、例年の平均記録より10℃は低い気温であった。中国からの冷たい気団と、南のアンダマン海からの湿った温かい気団がタイ国内で衝突して、乾期なのに雨が多く寒い異常な3月となった。いよいよタイ開国以来初めての雪が降るのがとても待ち遠しい！！！！

南部タイでは月末に洪水と山津波に見舞われ、2.7mの冠水があった。

Dr. MANAOのおどろきタイTalk
http://www.h5.dion.ne.jp/~dr_manao/

3月25日(金)午後8時55分にタイ最北端チェンライに近いミャンマーでM7の地震があり、9時23分、10時54分と余震が続いた。チェンライ県で55歳の女性が倒壊したコンクリート壁の下敷きで亡くなった。

また震源から750km離れている首都バンコクの高層ビルやコンドミニアムでも、長い周期のゆれがあった。タイ人も地震がそろそろ近づいてきたなど実感している。

東日本大震災義捐金に対するタイ国民の反応は極めて素早く大規模である。わがチェンマイナコンピンLCも、26名で163,000バーツ(431,888円)を出し合い、姉妹クラブの岡山東LC経由で3月25日に送金した。

タイ国民の友情に感謝して、日本人よ頑張りました！！！！！！

今回は1月28日(金)夕方チェンマイに到着、79回目の訪タイで、4月26日朝日本に帰国する。

6月16日(木)にまた訪タイして9月14日(水)に帰国するまで、北部タイの山岳地帯に梅・マナオ(タイのライム)・矮性ココナツなど実のなる木の植樹を続けて行く！！！！

チョグディ・クラブ！



スコータイ植物園。来年9月の開園をめざして準備中。右手の小温室を日本盆栽庵にする予定。

～第6次産業の創造～ 農山漁村の活性化は6次産業化



2010年11月十日町市で「健康ビジネスサミットおぬま会議2010」が開催されました。今回は、『食と健康ビジネス』を開催テーマとし、基調講演講師にJA総合研究所 研究所長の今村 奈良臣（いまむらならおみ）氏を迎え、「食」を中心として、健康ビジネスに関する9つの個別会議を合同開催されました。今村奈良臣氏のお名前は存じあげておりましたが、講演を初めて聴く機会となりました。

最近の新聞には「6次産業」の文字を見ることが多くなっています。活力ある農業・農村を目指していくための「6次産業」がいま注目されています。6次産業（ろくじさんぎょう）とは、1990年代半ばに東京大学名誉教授の今村奈良臣氏が提唱した造語で、 $1 \times 2 \times 3 = 6$ で6次産業とよぼうというものです。農山漁村が生産（第1次産業）だけでなく、食品加工（第2次産業）、流通・販売（第3次産業）にも関わり合うことで、加工賃や流通マージンなどの今まで第二次・第三次産業の事業者が得ていた付加

食の新潟国際賞財団
アドバイザー 古俣 清勝

価値を、農業者自身が得ることによって農業を活性化させようというものです。高い付加価値や新たな食と農の関連ビジネスを創出していく新しい産業です。経営の多角化と活性化につなげていこうという考え方です。

今村教授は、経済学には経済・産業の発展によって、産業は第1次産業から第2次産業へ、さらに第3次産業へとシフトし、第3次産業が大きい国が先進国であるという考え方があります。しかし、それだけでは先進国の第1次産業である農業は衰えることになる。そこで、1次産業＋2次産業＋3次産業＝6次産業という考えを提唱しました。農業を単に農畜産物の生産という1次産業にとどめず、2次産業（加工や食品製造など）や3次産業（流通・販売など）にまで踏み込むことで、新たな付加価値を創造し、地域に新たな雇用の場を創造する活動を推進しようと呼びかけました。しかしその後、足し算では不十分だと考えるようになり、かけ算にあらためることにしたのです。



1次産業×2次産業×3次産業＝6次産業である。足し算でも答えは同じ「6」となるが、かけ算にすることで、1次産業の農業がなくなれば、つまり農業がゼロになったら、いくら2次産業、3次産業を強化しても、答えはゼロになる($0 \times 2 \times 3 = 0$)ということを強調したかったからである。各次の産業の連携による農村の活性化や、農業経営体の経営の多角化が必要になる。農産物のブランド化、消費者への直接販売、レストラン経営、観光農園などを企画し、農村部の地域活性化が各地で取り組まれています。



政府も「農山漁村6次産業化ビジョン」を掲げており、6次産業化という言葉が社会的に認知されるようになりました。その骨子は(1)農山漁村特有の資源を活用した付加価値のある地域ブランドの確立、(2)新たな生産販売サイクルの確立、(3)バイオマスを機軸とした新たな産業の振興、(4)教育、医療・介護の場としての活用、(5)農山漁村集体の定住人口、交流人口の拡大、(6)農協等の改革、です。



食の新潟応援団(賛助会) 会員名簿 (平成23年7月1日現在 順不同、敬称略)

特別会員		正会員		個人会員
亀田製菓(株)	(株)新宣	(株)第一印刷所	(株)鳥梅	井田 増夫
		新潟県信用組合	佐川急便(株)関東支社	
(株)ブルボン	新潟市農業協同組合	(株)タカヨシ	(株)山由製作所	山口 眞樹
		(株)本間組	新潟万代島総合企画(株)	藤島 安之
亀田郷土地改良区	三井物産(株)新潟支店	石本酒造(株)	(株)キタック	今泉 昇
		(株)ミカサ	鍋林(株)	新保 房機
新潟県農業協同組合中央会	(株)エイケイ	神山物産(株)	レンゴー(株)	大越 斎
		(株)山忠	北越工業(株)	
学校法人新潟総合学園	三菱商事(株)新潟支店	シヨクザイ新潟(株)	丸榮製粉(株)	酒井 定勝
		丸七商事(株)	(株)鈴木コーヒー	宮澤 正幸
第四銀行	ホテル日航新潟	大東産業(株)	TeNYテレビ新潟	坂田 武利
		藤屋段ボール(株)	(株)栗田工務店	佐藤 宗幸
一正蒲鉾(株)	NST	新潟工科大学産学交流会	(株)細山商店	児玉 伸
		(株)タケショー	三和薬品(株)	増村 文夫
佐藤食品工業(株)	(株)電通東日本新潟支社	日本たばこ産業(株)新潟支店	(株)藤井商店	鈴木 厚生
		(株)新潟博報堂	セッツカートン(株)新潟工場	有沢 栄一
(株)栗山米菓	(株)新潟クボタ	BSN新潟放送	ハセガワ化成工業(株)	高嶋 潔
		新潟陸運(株)	日本精機(株)	和田 充彦
岩塚製菓(株)	亀田商工会議所	医療法人 愛仁会 亀田第一病院	東邦産業(株)	
		(株)新潟食品運輸	日精サービス(株)	河内 直史
三幸製菓(株)	にいがた22の会	山崎醸造(株)	麒麟山酒造(株)	
		月島食品工業(株)	新潟商工会議所	
(株)新潟日報社		松田産業(株)	(株)雪国まいたけ	
		(株)フジテレビジョン	(株)加島屋	
		日本製粉(株)関東支店	(株)日本フードリンク	
		日本甜菜製糖(株)		

食の新潟応援団(賛助会)募集中！

食を通じて飢餓や貧困などに苦しむ世界の現状に目を向けると、日本にいる私たちにも食の危機が及びつつあり、世界の人々の命が一つにつながっていることがわかります。食と私たちの命を守る本財団の事業に賛同し応援して下さる皆様を募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。

ホームページアドレス:

<http://www.niigata-award.jp/jp/join/>